

2020年度入試

# 入学試験問題集

【東京成徳大学 応用心理学部 健康・スポーツ心理学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

## 目 次

AO入試1期 小論文 .....	1
AO入試2期 小論文 .....	2
AO入試3期 小論文 .....	3
推薦入試1期（公募制度・指定校制度） 小論文 .....	4
推薦入試2期（公募制度） 小論文 .....	5
一般入試D日程 小論文 .....	6
出題意図・解答例.....	7

一般入試A・B・C日程につきましては、  
「2020年度入試問題集  
一般入試A日程・B日程・C日程  
(全学部・学科共通)」をご確認ください。

# ● AO 入試 1 期

【小論文】（試験時間：60 分）

この夏、高校野球におけるピッチャーの“投球数”を制限するべきという議論が話題になっています。そこで、「投球数制限導入」について賛否の立場を明らかにし、あなたの考えを解答用紙に 800 字以内でまとめて下さい。

# ● AO 入試 2 期

## 【小論文】（試験時間：60 分）

以下は、高校 3 年生の A さんと B さんの会話です。  
会話文を読み（1）（2）について答えてください。

A：6 月末に部活を引退してから、私かなり太ったみたい。内緒の話だけど、1 週間前に体重計に乗ったら体重が 58.0 kg で体脂肪率が 28.0% だったんだよ。昨日も計ったらどちらもほぼ同じだった。間食を減らした効果があったのかもしれない。

B：体重と体脂肪率が変わっていないのは、1 日の摂取カロリーと消費カロリーが同じってことだね。

A：うん、そうなんだよ。だから明日から朝ごはん抜きにしてダイエットしようと思っているの。私のいつもの朝食による摂取カロリーが約 420 kcal だから、朝食を抜けば毎日約 60 g 体重が減っていくことになるんだよね。私の目標は 5 kg のダイエットだから 83.3 日（約 3 か月）でクリアできそう。

B：それはだめだよ。食事を抜くダイエットは健康に良くないよ。それに 30 歳未満の女性の体脂肪率の標準は 17～24% のようだから、気にするほど体脂肪率が高いとは思わないけどね。どうしてもダイエットしたいなら、やっぱり、食事は今のままで、運動によって適切な体重を減らしていくほうが良いと思うよ。

A：そうか。さすが T 大学の健康・スポーツ心理学科を受験するだけあるね。

B：個人差もあるけど、例えば、30 分のジョギングで約 210 kcal が消費できるみたいだよ。

A：えー！ 朝食を抜いたときの 2 分の 1 しか効果がないの？

B：（ （2） A さんへのアドバイス ）

A：わかった。そうしてみる。ありがとう。

(1) A さんは太っていることを気にしてダイエットについて考えています。ダイエット（瘦身：そうしん）とは、一般的に「食事を制限したり、運動をしたりして減量すること」と理解されています。「太っていること」や「ダイエット」についてあなたはどのように考えていますか。あなたの考えを 300 字程度で述べてください。

(2) あなたが B さんなら A さんにどのようにアドバイスしますか。上記会話文中の「(2) A さんへのアドバイス」の部分埋める B さんの発言を会話調で 300 字程度で述べてください。

# ● AO 入試 3 期

## 【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

体罰<sup>1</sup>には競技力向上にプラスの効果があるのか。人間は、賞罰を与えることによりパフォーマンスがアップするのか。またそうしないと人は努力できないのか。（中略）体罰は言われたことを忠実にこなす時には一定の効果があると思うが、自分で考えて行動しなければならないものにはマイナスの効果となるだろう。一方で、競技力向上にプラスである場合、選手本人が嫌がっていてももちろん許されないが、両者が合意の上であれば、体罰を使用した指導法は許されるのだろうか。実は体罰を受けていた選手で、体罰を容認する人は案外と多い。私が出席した会議では 3 割が容認派だった。（中略）現役時代の選手は勝利を渴望するあまり、毎日のトレーニングや試合に集中していて、視野が狭くなっている。また、多くのスポーツは限られた空間やメンバーで行われるために、空気が固定化されやすい。体罰が行われているチームは往々にして閉鎖性があり、新しい人が入ってこない傾向にある。そういう場所では体罰が当たり前の空気ができあがり、選手が客観的な視点に立てなくなっている可能性がある。つまり、両者の合意が成り立ったからと言ってそれを本当の意味の合意とみなすことは難しいのではないか。

1 教員が、児童・生徒に対して、戒めるべき言動を再び繰り返させないという、教育目的に基づく行為や制裁を行うことを懲戒という。懲戒には、事実行為としての注意、警告、叱責、説諭、訓戒や、法的効果をもたらす訓告、停学、退学の処分がある。懲戒のうち、教員が、児童・生徒の身体に、直接的又は間接的に、肉体的苦痛を与える行為を体罰という。体罰には、たたく、殴る、蹴る等の有形力（目に見える物理的な力）の行使によるものと、長時間正座や起立をさせるなどの有形力を行使しないものがある。（体罰の定義・体罰関連行為のガイドライン、教育庁、2014 年より引用）

出典：日本心理学会／為末大／「心理学ワールド 77 号暴力」P17-20

- (1) スポーツにおいて体罰という行為を行ってしまう背景として、指導者および選手にはどのような心理が働いているかについて、あなたの考えを 300 字程度で述べなさい。
- (2) もし、あなたが組織における指導的立場に立った場合、どのようにして体罰やそれにつながる風潮を無くそうとするかについて 300 字程度で述べなさい。

# ●推薦入試 1 期（公募制度・指定校制度）

## 【小論文】（試験時間：60 分）

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

出題文章の著作権使用許可が下りなかったため、本文を掲載しておりません。

日本の学校教育における「人間力」について、心理学関連の書籍より引用しております（750 字程度）。

(1) この文章を 100 文字程度に要約しなさい。

(2) 人間力戦略研究会は、2003 年の報告書「若者に夢と目標を抱かせ、意欲を高める ～信頼と連携の社会システム～」において、人間力について「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」として、1. 知的能力的要素 2. 社会・対人関係力的要素 3. 自己制御的要素の 3 つをあげ、人間力を高めるためにはこれらを総合的にバランス良く高めることが必要であるとしています。

このことを手掛かりに、現在の自分の人間力について、大学でどのようにしてどういった人間力をつけていきたいかについて、あわせて 400 字程度で述べなさい。

# ●推薦入試 2 期（公募制度）

## 【小論文】（試験時間：60 分）

表 2 は平成 26 年国民健康・栄養調査の結果（一部抜粋）である。

- 平成 26 年国民健康・栄養調査の結果から、どのようなことが明らかとなったのか、表 2 を適切に読み取り、具体的に 300 字程度で述べなさい。
- 経済格差と健康格差の問題について、あなたの意見とその解決に向けて健康・スポーツ心理学が貢献できると思われることを 300 字程度で述べなさい。

表2 所得と生活習慣等に関する状況(20 歳以上)

※世帯の所得額を当該世帯員に当てはめて解析  
 ※★は 600 万円以上の世帯の世帯員と比較して、群間の有意差のあった項目

	世帯所得 200万円未満		世帯所得 200万円以上～600 万円未満		世帯所得 600万円以上		200万円 未満**	200万円 以上～ 600万円 未満*	
	人数	割合また は平均	人数	割合また は平均	人数	割合また は平均			
1. 食生活 <sup>#</sup>	穀類摂取量(男性)	423	535.1g	1,623	520.9g	758	494.1g	★	★
	(女性)	620	372.5g	1,776	359.4g	842	352.8g	★	
	野菜摂取量(男性)	423	253.6g	1,623	288.5g	758	322.3g	★	★
	(女性)	620	271.8g	1,776	284.8g	842	313.6g	★	★
	肉類摂取量(男性)	423	101.7g	1,623	111.0g	758	122.0g	★	★
	(女性)	620	74.1g	1,776	78.0g	842	83.9g	★	★
2. 運動	運動習慣のない者の割合(男性)	267	70.9%	973	68.0%	393	68.2%		
	(女性)	417	78.0%	1,146	74.4%	546	74.8%		
	歩数の平均値(男性)	384	6,263	1,537	7,606	743	7,592	★	
(女性)	570	6,120	1,675	6,447	814	6,662	★		
3. たばこ	現在習慣的に喫煙している者の割合(男性)	499	35.4%	1,853	33.4%	867	29.2%	★	★
	(女性)	705	15.3%	1,996	9.2%	935	5.6%	★	★
4. 飲酒	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(男性)	502	11.5%	1,853	17.0%	867	15.0%	★	
	(女性)	705	9.7%	1,996	8.8%	936	9.2%		
5. 睡眠	睡眠による休養が充分とれていない者の割合(男性)	502	18.0%	1,855	20.0%	867	18.8%		
	(女性)	705	21.4%	1,997	19.5%	937	18.5%		
6. 健診	未受診者の割合(男性)	501	42.9%	1,854	27.2%	867	16.1%	★	★
	(女性)	703	40.8%	1,998	36.4%	937	30.7%	★	
7. 体型	肥満者の割合(男性)	383	38.8%	1,457	27.7%	659	25.6%	★	
	(女性)	576	26.9%	1,565	20.4%	750	22.3%	★	
8. 歯の本数	20歯未満の者の割合(男性)	500	33.9%	1,844	27.5%	865	20.3%	★	★
	(女性)	702	31.2%	1,991	26.5%	936	25.8%	★	★

注) 有意差とは統計的に意味のある差のことである。有意差のない箇所は「統計的に差があるとはいえない」と解釈できる。

# ●一般入試 D 日程

## 【小論文】（試験時間：60分）

表1・2は、日本野球機構オフィシャルサイトにて公表されている、日本プロ野球公式試合における球団別入場者数を基に作成されたものである。表を参考に下記の問1・問2に答えなさい。

問1 日本プロ野球公式試合入場者数の傾向について説明しなさい。（250字程度）

問2 プロ野球の観戦は、人々の健康維持増進にどのように貢献していると考えられるか。できるだけ具体的に説明しなさい。（250字程度）

表1 セントラル・リーグ年度別入場者数（セ・パ交流戦を除く）

年度	リーグ全体			球団別入場者数(人)					
	試合数	合計 入場者数(人)	1試合平均 入場者数(人)	読売 ジャイアンツ	東京ヤクルト スワローズ	横浜DeNA ベイスターズ*	中日 ドラゴンズ	阪神 タイガース	広島 東洋カープ
2005	438	11,672,571	26,650	2,922,093	1,307,731	976,004	2,284,400	3,132,224	1,050,119
2006	438	11,877,677	27,118	2,892,695	1,315,389	1,106,511	2,398,698	3,154,903	1,009,481
2007	432	12,140,359	28,103	2,911,358	1,333,231	1,231,997	2,390,532	3,144,180	1,129,061
2008	432	12,083,181	27,970	2,876,274	1,281,714	1,129,954	2,427,805	2,976,754	1,390,680
2009	432	12,692,228	29,380	2,934,370	1,332,366	1,246,967	2,298,405	3,007,074	1,873,046
2010	432	12,308,022	28,491	2,966,626	1,332,928	1,209,618	2,193,124	3,005,633	1,600,093
2011	432	11,792,344	27,297	2,716,974	1,348,259	1,102,192	2,143,963	2,898,432	1,582,524
2012	432	11,790,536	27,293	2,903,947	1,322,678	1,165,933	2,080,530	2,727,790	1,589,658
2013	432	12,202,009	28,245	3,008,197	1,432,695	1,425,728	1,998,188	2,771,603	1,565,598
2014	432	12,616,873	29,206	3,018,284	1,438,775	1,564,528	2,000,912	2,689,593	1,904,781
2015	429	13,510,900	31,494	3,001,187	1,657,511	1,813,800	2,049,784	2,878,352	2,110,266
2016	429	13,848,988	32,282	3,004,108	1,779,460	1,939,146	2,058,381	2,910,562	2,157,331
2017	429	14,024,019	32,690	2,958,890	1,862,731	1,979,446	2,010,772	3,034,626	2,177,554
2018	429	14,235,573	33,183	3,002,347	1,927,822	2,027,922	2,146,406	2,898,976	2,232,100
2019	429	14,867,071	34,655	3,027,682	1,955,578	2,283,524	2,285,333	3,091,335	2,223,619

※2005年から2011年まで「横浜ベイスターズ」

表2 パシフィック・リーグ年度別入場者数（セ・パ交流戦を除く）

年度	リーグ全体			球団別入場者数(人)					
	試合数	合計 入場者数(人)	1試合平均 入場者数(人)	北海道 日本ハム ファイターズ	東北楽天 ゴールデン イーグルス	埼玉西武 ライオンズ*	千葉ロッテ マリナーズ	オリックス・ パフアローズ	福岡 ソフトバンク ホークス
2005	408	8,252,042	20,226	1,365,643	977,104	1,103,148	1,334,014	1,356,156	2,115,977
2006	408	8,529,281	20,905	1,603,541	951,723	1,196,574	1,349,656	1,390,231	2,037,556
2007	432	9,046,670	20,941	1,833,054	1,117,369	1,093,471	1,558,430	1,137,186	2,307,160
2008	432	9,555,016	22,118	1,873,931	1,149,061	1,413,583	1,601,632	1,266,765	2,250,044
2009	432	9,707,451	22,471	1,992,172	1,203,169	1,515,045	1,465,189	1,285,907	2,245,969
2010	432	9,832,981	22,762	1,945,944	1,141,640	1,591,303	1,546,105	1,443,559	2,164,430
2011	432	9,777,852	22,634	1,990,338	1,168,188	1,591,651	1,332,815	1,400,961	2,293,899
2012	432	9,579,690	22,175	1,858,524	1,177,793	1,526,028	1,239,168	1,330,676	2,447,501
2013	432	9,845,482	22,790	1,855,655	1,281,087	1,600,841	1,260,439	1,438,467	2,408,993
2014	432	10,242,478	23,709	1,897,789	1,450,233	1,498,365	1,223,915	1,703,734	2,468,442
2015	429	10,726,020	25,002	1,959,943	1,524,149	1,616,827	1,322,004	1,767,220	2,535,877
2016	429	11,132,526	25,950	2,078,981	1,620,961	1,618,194	1,526,932	1,794,475	2,492,983
2017	429	11,115,444	25,910	2,086,410	1,770,108	1,673,219	1,450,164	1,608,751	2,526,792
2018	429	11,315,146	26,376	1,968,916	1,726,004	1,763,174	1,665,133	1,625,365	2,566,554
2019	429	11,669,891	27,203	1,970,516	1,821,785	1,821,519	1,665,891	1,733,998	2,656,182

※2005年から2007年は「西武ライオンズ」



# ●出題意図・解答例

## AO入試1期【出題意図】

---

近年、我が国では学校スポーツにおける指導者と競技者の関係性が話題となっており、“アスリートセンタード”という言葉が広く知られるようになった。この背景には、非合理的な旧態依然の指導方法によって、指導者が競技者の権利を奪ってきた我が国独自の学校スポーツの問題がある。米国には、MLBとアマチュアの各団体で作った、アマチュア投手対象の故障防止のための取り組み「PITCH SMART（ピッチ・スマート）」というガイドラインによって、年代ごとに投球制限を設けている。しかし、我が国では、高校野球を『熱い青春ドラマ』と捉えているため、「灼熱の太陽の下、1人で9回180球を投げ切った」などの表現に感動を覚える。事実、7月25日の岩手大会の決勝戦で、全国ナンバーワンといわれる大船渡高校のエース佐々木朗希を、同校の監督が「故障を防ぐため」という理由で登板させなかった時も、「無理をしても投げるべき」という意見が少なからずあったことが我が国のスポーツ教育の認識の低さを表している。また、一方では米国スタイルの投球数制限は、MLBにおけるエージェントと球団の契約の結果であり、怪我を未然に防ぐことが目的ではないという指摘もある。このケースは、指導者の判断、過密スケジュールを計画した組織、さらには無理をしても頑張らなければならないという周囲の期待など、そして成長期におけるオーバーユースに関する科学的根拠の共有など、様々な要因が複雑に混在している。このような学校スポーツにおける問題は、歴史的な認識も混在する複雑な背景があるが、目を反らすことのできない解決すべき問題である。この課題に対して受験生の関心の高さや認識、そうした課題の本質を理解した上で解決策を提案する能力、それらを分かりやすく表現する能力などを見る。

## AO入試2期【出題意図】

---

高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに自分なりの思考、判断、表現ができ、かつ将来の自他の健康づくりに資する主体性、多様性、協働性の発揮が期待できる力を判断するために、会話文を読んで状況が的確に理解できていること、理解した内容を自分なりの考えに基づき分析・考察できていること、その分析・考察結果を踏まえ他者の健康を気遣ったうえで適切な助言ができているかどうかを評価する。

本問では、会話文を通して以下の1)～3)を示している。

- 1) ダイエットの仕組みや適切なダイエットについて考えさせる情報
- 2) Aさんの設定したダイエットの目標値と体脂肪率の標準値
- 3) 健康に良いかもしれないが効率が悪いダイエット法に対するAさんの不満

設問(1)は、「太っていること」や「ダイエット」についての受験者の考えを問うものである。何らかの正解を求めるものではなく、受験者の他者の個性を認めようとする視点、他者を思いやる人間性、現時点の健康観など健康・スポーツ心理学で学ぶ上での素養について確認する。

設問(2)では、効率の悪いダイエットに不満感を示しているAさんを納得させ、前向きな気持ちで運動によるダイエットに励んでもらえるような効果的なアドバイスがどの程度できているかについて確認する。

設問(1)については、①設問の趣旨を正確に理解し、適切に記述できているかどうか、②健康・スポーツ心理学で学ぶ素養があるかどうか、設問(2)については、③設問の趣旨を正確に理解し、適切に記述できているかどうか、④健康的なダイエットの方法を主体的に考え、相手にとって適切な目標を設定し、目標達成に向けた合理的な方法・手順を示すことができているかどうか、⑤相手の目標達成に向けて、自ら協力してあげようとする視点を持っているかどうか、という観点で評価される。

## AO 入試3期【出題意図】

---

高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに自分なりの思考、判断、表現ができ、かつ将来の他者への健康支援に向けて、主体性、多様性、協働性の発揮が期待できる力を判断するために、文章を読んで問われていることを的確に理解すること、理解した内容を自分なりの考えに基づき表現すること、課題の本質を理解した上で他者の健康や健全な社会を創っていくための解決策を提案する力について、わかりやすく表現できているかどうかを評価する。

本問においては、スポーツ場面における体罰に関する文章を読んで、問われていることを正確に理解し、その問題に対する考えを論理的に表現できるかどうか、課題解決に向けて主体的に考え、協働して課題を解決しようとしているかどうかについての解答を求めている。

設問（1）では、スポーツにおいて体罰が起こる背景として、指導者および選手にどのような心理が働いているかについて、体罰行為を行う指導者、行為を受ける選手の2つの視点から考察し、論理的に説明できているかどうか、設問（2）では、体罰の撲滅に向けて、相手（例えば、選手、チームスタッフなど）の立場を立てて物事を考えることができているかどうか、他者と協調・協力しようとしているかどうか、という観点で評価される。

## 推薦入試1期（公募制度・指定校制度）【出題意図】

---

高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに自分なりの思考、判断、表現ができ、かつ将来のキャリア形成に向けて、主体性、多様性、協働性の発揮が期待できる力を判断するために、文章を読んで理解すること、理解した内容を自分なりに表現すること、その内容を自分の生活を役立てることができるかどうかを評価する。

本問においては、ポジティブ心理学の中核的研究の一つであるポジティブな特性、特に品性、徳目が、日本社会において注目される「人間力」と類似の概念であり、「人間力」の教育は、ポジティブな特性の教育とも関係することを説明する文章を読んで、その内容と理路を正確に理解できるかどうか、理解した内容を適切に要約し表現できるかどうか、理解した内容に基づいて現在の自分を振り返ることができるかどうか、それに基づいて大学での学びの目標とその過程について主体的に考え取り組む態度があるかどうかについての解答を求めている。

それぞれは、（1）正確に理解し、適切に要約できているかどうか、（2）具体的な根拠を示しながら、3つの観点に基づいて自分についての振り返りができているかどうか（人間力が高いか低いかについては評価に関係しない）（3）（2）と整合性のある目標、課題が示され、そのための具体的な取り組みについて意欲的に書かれているかどうか、という観点で評価される。

## 推薦入試2期（公募制度）【出題意図】

---

（1）では客観的なデータをまとめた表を適切に解釈できるかどうかを評価する。有意差を考慮したうえで、データを正確に解釈できることが望ましいが、有意差のない箇所であっても数値の大小関係を適切に理解していれば理解の程度に応じて評価する。（2）では経済格差と健康格差について、自らの考えや提言を論理的に述べているかどうかを評価する。

## 一般入試 D 日程【出題意図・解答例】

---

- (1) 示されたデータを正確に読み取り、適切に解釈できる能力を評価する。
- (2) 基礎的な学力を基に、論理的に表現できる能力を評価する。

### 解答例 1

- (1) 両リーグに共通している特徴として、過去 14 年間の 1 試合平均入場者数は増加傾向にあると考えられる。セ・リーグでは、2005 年度の入場者数上位 3 チームであった阪神タイガース、読売ジャイアンツおよび中日ドラゴンズは、期間内に 30 万人ほどの増減はあるものの、現在に至るまで大きく変化しておらずほぼ横ばいであるといえる。一方で、2005 年度の下位 3 チームについては、最も入場者数が少なかった年度と比較して 1.5 倍～2.3 倍の増加を見せており、セ・リーグの入場者数の増加は下位 3 チームによる入場者数の増加が反映されたものであると考えられる。(252 文字)
- (2) 幼少期に球場での選手との交流イベントやスポーツ観戦そのものの楽しみを享受することで、野球に関する興味や関心が高まり、積極的な運動・スポーツ参加を促進すると考えられる。また、応援するチームやあこがれの選手などができれば、それら対象の主催する野球教室に参加する可能性も高まり、実際に体を動かす機会の増加や能動的なスポーツ参加につながると考えられる。幼少期におけるこのような活動は、生涯を通じた継続的なスポーツ活動への態度を育み、生涯スポーツとして継続的な運動習慣が形成されるきっかけとなると考えられる。(249 文字)

### 解答例 2

- (1) 過去 14 年間の 1 試合平均入場者数は、パ・リーグよりもセ・リーグの方が一貫して多いことが示されている。2005 年度と 2019 年度を比較するとパ・リーグでは全ての球団が 30 万人以上の入場者増加を示しており、パ・リーグの平均入場者数の増加はパ・リーグ全体的な現象であると考えられる。その中でも 2019 年度は 4 球団が最も多い入場者数を示すなど、近年においても増加傾向であると考えられる。福岡ソフトバンクホークスが突出して高く、それに次ぐ北海道日本ハムファイターズは 2017 年度をピークに入場者数の減少傾向を示していると考えられる。(247 文字)
- (2) 野球観戦はストレス発散の場となるだけでなく、家族や友人との野球観戦は周囲の人と良好な関係性の構築につながり、自身の生活環境の改善・発展が期待できる。また、選手のダイナミックなプレーを見ることで、自身も実際に野球をプレーする欲求が高まり、観戦時以外における身体活動量の増加を図ることができる。さらに、球場に設置されているブースや自ら野球に関する情報を収集することを通じて、野球のみならず運動・スポーツに関わる情報も同時に収集が成され、運動・スポーツ全般に関する興味の向上につながると考えられる。(246 文字)